



Kinzoku Danchi News since 1974

金属団地ニュース

No.498

2016.3.22



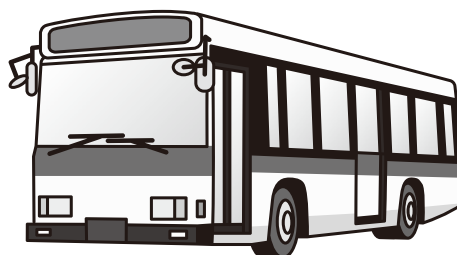
2月度月例会開催

2月22日(月)の正午より組合研修センター 3階の集会室において2月度月例会が開催されました。今回は、西日本電信電話(株)岐阜支店 岐阜ビジネス営業部 営業部長 里地紀哉氏を講師にお迎えし、『個人情報漏洩と不正送金対策について～セキュリティ機器のご案内』をテーマにご講演いただきました。今年1月からマイナンバー制度の運用が開始され、事業者にはマイナンバーの漏洩、滅失、毀損の防止等のために、基本方針や取扱規定の査定に加え、安全管理措置を講じる必要があると考えられます。特にインターネットを介した脅威からのセキュリティ対策は不可欠となっており、個々のパソコンにアンチウイルスソフト(エンドポイント・セキュリティ)を入れるのは勿論のこと、さらにパソコンに入る前にウイルスを発見し進入を防ぐUTM(ゲートウェイ・セキュリティ)の導入が有効であるとのことでした。すでに万全のセキュリティ対策をされている組合員もあると思いますが、まだ対策不十分だと思われる組合員は、顧客情報や従業員個人情報等を守るためにも、これを機会に一度セキュリティ対策を再検討されてみてはいかがでしょうか？



組合員親睦旅行に是非参加して下さい

来年度の組合員親睦旅行は組合創立55周年を記念して2泊3日で開催する予定です。そこで、1月19日に全組合員を対象に旅行の行き先等に関するアンケートを実施した結果、17社から回答が得られました。お忙しい中貴重なご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。国内をはじめ海外からもいくつかの候補地が出てまいりましたので、それらをもとに総務委員会で旅行詳細について検討し役員会で承認後、ご案内をする予定であります。参加をされる方にご満足いただけるよう、これからも検討を重ねてまいりますので、ご案内がお手元に届きましたら、万障お繰り合わせの上、是非ともご参加いただけますようお願い致します。



「昭和九十一年」

俳人中村草田男の代表作に「降る雪や明治は遠くなりけり」と言う有名な句がある。明治という時代が終わってどれくらい経過した時の感慨を歌ったものかという興味があって調べてみた。

草田男は明治34年の生れでこの句は昭和の6年に発表されたものだと言った。その時作者は30才くらいで、明治が終わってからだいたい20年の月日が流れていることになる。

私の父母は明治生れであり、女房の両親も明治の人である。明治最後の45年生れの人は今年で104才であるからまもなく明治生まれの人はこの世にいないことになる。

私の父は明治35年生れで、丁稚奉公から身を起し糸や毛糸を扱う商いで8人の子供を育ててくれた。2合の晩酌と煙草以外に何の道楽もなく商売一筋の堅い人であった。酒は富翁2級酒で木杵に6升入ったものが毎月酒屋から届けられた。煙草のゴールデンバットの封を切るやラシャ鋏で1本を3つに切ってダルマの画がついた紙の箱に入れるのである。店先の大きな火鉢には何時も炭がいてあり3分の1に切ったゴールデンバットを煙管につめてはうまそうに吸うのであった。中学生の頃であったか、富翁を湯呑みに1杯呑んだのがバレてひどく叱られたことがあった。父は毎晩きちんと2合の晩酌なので最後が半端になってバレたのである。それからはチョイチョイと2合を盗み呑みをしたが叱られることはなかったのであった。今にして思えばきっと父は知っていたが何も言わなかったのではなかろうかと思っている。父は正月と岐阜祭の時以外は昼間には決して酒を口にするとはなかった。「わしは学校に行ったのは4年だけだが、お前たちには100年以上も学校に行かせている」と言ってうまそうに盃をかたむける姿が思い出される。昭和33年に肺癌が見つかり慶応病院に入院した父は石川七郎という教授の執刀で手術を受けて一応は成功したようであった。当時は社会保険がなかったので支払いが大変であり、飯野海運や富士製鉄の株を売って充てたということであった。「・・・わしは生涯儉約一筋できたが今度ばかりは大変な道楽をしたもんだ・・・」と言ってさびしく笑っていたのを思い出す。

女房の母親は明治34年の生れで15年程前に102才の往生を遂げた女性である。女房は6人兄弟の末っ子なので親にしてみれば子供はいくつになっても可愛いものだと思えてわが家に来ると2、3日泊まってゆくのが常であった。厳冬の夜でもスパッと諸肌を脱いで浴衣に着替え「お先に休ませていただきます」と言われるのには恐縮したものである。更にびっくりすることには、7度や8度の熱があっても決して横にならないのである。寝つくのが怖いから少々の感冒くらいは動いて治すというから驚きである。誠に乱暴な話であるが頑固なまでの意志の強さに明治女の心意気を感じる思いであった。彼女が90才を過ぎた頃のこと、横浜に住む孫の結婚式に行くことになったが日帰りの予定なのでおばあさんは留守番ということにしようと皆で相談を決めていたところ呉服屋から着物が届いたから一同びっくりしたのであった。結婚式に出る為の着物が詭えてあったのである。食欲が細って最後は6日ばかりの入院のみで実に安らかな大往生の人であった。

明治という時代の空気を生きた人の聲に接することができたのは大変貴重でありがたい経験であったと思っていることである。

明治生れの草田男は昭和58年の8月5日に82才の生涯を終えた。この日を「炎熱忌」という。

思えば昭和という時代が去ってはや28年の月日が流れた。

「夏草や昭和も遠くなりけり」・・・か。



金属団地青年部 鹿児島旅行

1日目

青年部は、2月5日(金)～7日(日)にかけて親睦旅行として、九州・鹿児島県へ参りました。飛行機が午前8:00発と早朝のため、皆、眠い目をこすりながらの集合でしたが、誰一人遅れることなく、青年部出席者10名が無事鹿児島に到着することができました。空から見る鹿児島は火山が多いせいか、平地が非常に少ないとの印象でした。改めて関東、濃尾、大阪平野の立地としての優位性を感じた次第です。



到着日はそのままバスにて霧島方面のバス観光に出発です。車に乗り込むと、余興としてガイドさんから、伝統的な鹿児島弁で歓迎のご挨拶をいただきました。しかし、岐阜者の我々では、正直何を言っているか全く理解する事ができませんでした。現在より地方同士の言語差が激しかった、江戸・明治時代にはどのようにコミュニケーションをとっていたのか想像すら付きません。その時代には、遠隔地とのコミュニケーションは大名や幹部家臣だけのものでありました。ですが、明治維新後に正式な近代教育が施され、一般庶民レベルでも全国各地が均一な「日本」になりました。2000年代初頭から”グローバルゼーション”なる用語が登場しましたが、現在は地球レベルでの均一化が急速に進行中です。最早、制度・取引ルールでは統一化が成ったといっても過言では無いレベルですが、言語についても、いつか我々の子孫は英語(?)を話す時代が来るのでしょうか。

さて、バスは2011年に噴火をした新燃岳を含む霧島連山の車窓観光をしつつ、霧島神宮へ向かいます。

この神宮は、6世紀に今とは異なる場所(高千穂峰と火常峰(御鉢)の間)に造営されたのが始まりとされています。しかし、火山の麓にあるという立地のため、幾度も炎上、移設、再建が繰り返されてきました。現在の社殿は薩摩藩・島津吉貴公により1715年に再建された物です。手入れが行き届き、現在でも朱色に美しい輝きを放っている壮麗な社殿など、歴史的・建築学的に大変見どころが多い場所ですが、最後に社務所でひいたおみくじの結果に一喜一憂して楽しんでいたのが、青年部らしいところですよ。





1日目の夜は、鹿児島市内に宿泊し、県内随一の繁華街である「天文館通り」の付近でぶたしゃぶの夕食をいただきました。ところで、県庁所在地である鹿児島市の人口は約60万人です。一方、岐阜市の人口は約40万人です。確かに20万人差はありますが、「天文館通り」と「柳ヶ瀬」の賑わいの差は、天と地ほどでありました。県民総生産では寧ろ鹿児島を上回る岐阜県ですが、街の賑わいとなるとなぜこうなるのか、興味深いところです。



尚、青年部一行が鹿児島に到着したこの日(2016年2月5日)、久方ぶりに桜島が噴火しました。我々は鹿児島に歓迎されているのか、拒否されているのか…(笑)

2日目

2日目は、いぶすきゴルフクラブ・開聞コースにてプレーを楽しみました。折からの強風に煽られて皆、スコアメイクに四苦八苦しましたが、コースロケーションは最高でした。其の名の通り、見事な円錐山体で薩摩富士と呼ばれる開聞岳が一望できるコースであり、眺望を満喫しながら楽しくプレーができました。この時は開聞岳の美しさのみに目を奪われていましたが、後にまた別の視点でこの山を見ることとなります。(後述)因みに結果ですが、高橋鉄工所・高橋専務が初優勝を飾りました。(おめでとうございます!!)



二日目の夜は、指宿温泉に宿泊し、名物の砂風呂で体の疲れを癒やしました。砂風呂施設は、20人ほどが配置できる区画が幾つか設置されており、そこへ待ち行列を構成している観光客を、空いた区画順で案内していくシステムです。次から次へと人間が送り込まれる様は、自分が工業製品にでもなった感覚で妙な気分でした。(砂風呂自体は最高でした。(為念!!))

砂風呂の後に、宴席を設け、皆で様々な話をしました。最初は、強風のせいで予想外(苦笑)となった本日のゴルフスコアについてなど柔らかな話題でした。しかし時間が経つにつれ話題の中心は、世

交代とこれに伴う会員数の激減に見舞われる青年部の金属団地内での役割に移り、お互いの意見を忌憚なくぶつけあいました。

3日目

3日目は知覧特攻平和会館に参りました。ここは、第二次世界大戦末期に実施された、大日本帝国陸軍航空隊の特攻に関する資料を展示する施設です。特攻に赴かれた方の遺書や寄せ書き等に触れ、覚悟ややるせなさ、任務への決意と生への想い、様々に織り交ざった感情が感ぜられました。特攻そのものに対しては、現代に生きる私ではコメントすることすら憚られる所です。ただ、「あの方法しか取り得ない」といった状況が発生せぬよう、日常の凡事を徹底しようと思った次第であります。また、特攻と開聞岳には深い関係がありました。飛行場を飛び立った当時の特攻機にはレーダー装備はありません。沖縄沖の特攻目標等に向かう際に、第一の目印として使われたのが開聞岳です。また、ここでは、意外な知覧と各務原との繋がりが発見できました。平和会館では、1986年からは航空自衛隊岐阜基地で保管されていた日本国内で唯一現存する三式戦闘機「飛燕」II型改の貸与を受けて機体が展示されていました。しかし、この機体は再び各務原へ移されることとなり、2015年9月に川崎重工業岐阜工場に搬出され現在整備・修復作業中との事です。2018年3月からは各務原市のかかみがはら航空宇宙科学博物館で恒久展示されるとの事で、その際には一度足を運んでみようと思います。



平和会館の後は、おなじく南九州市・知覧郡の観光スポットである「武家屋敷」を周り、17:00 鹿児島発の飛行機で戻って参りました。お陰さまで、事故もなく全員無事に各自宅まで帰着することができました。

それぞれに仕事のスケジュールがあり、全行程同道ができなかったメンバーもいましたが、旅行を通して改めて青年部の結束の強さを確認することができました。

認知症

医療の世界に目を向けてみますと、国は認知症対策を最重点にしているようです。岐阜県の認知症高齢者数は平成27年の65歳以上の高齢者5、6人に1人からどんどん増え、平成52年には4人に1人という時代を迎えます。

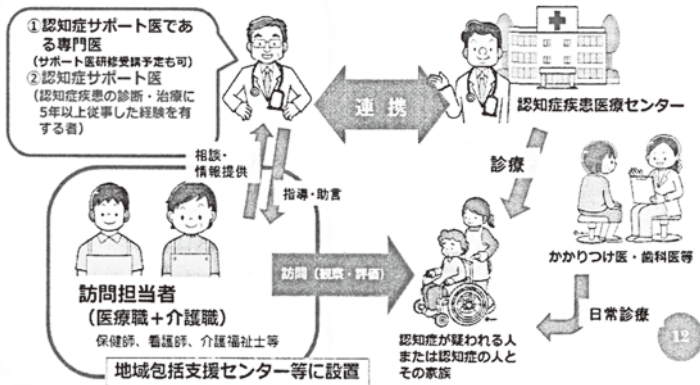
新オレンジプランとして認知症への社会の理解を深める為、認知症サポーター養成や学校での高齢者に対する理解促進の為の色々な試みが出されています。こういうのを聞くと昔、厚生労働省出身の女医さんが「厚労省の医療系医師は押しなべてペーパードライバーだ」と的を得た発言をされた事を思い出します。こういう時こそ現場密着の地域特性を考えた対策をして欲しいと思います。

認知症対策としてアルツハイマーで、異常に増える「タウ」「アミロイドベータ」といった蛋白を標的にした薬剤の研究が進められていますが、今求められているのは進行を少しでも遅くする日常生活の改善です。私は以前からお話していますが、まずは日記を手書きで字を思い出しながら書き、毎週読み直す事、また積極的に家族以外の他人との会話を心がけ一人ぼっちにならない事、そのために地域包括支援センターとコミュニケーションをとり、地域の催しに参加することを勧めています。認知症対策以外では国が在宅医療を積極的に勧めてきた結果、利用者は2014年に1日あたり15万人を超えていますが、医療保険、介護保険の重複など両保険の請求書審査を担当している私の目からすると、利用者が余分な負担を課せられ納得のいかない事例があるのも事実です。この中には両保険の医療に対するシバリがあるのも事実です。もう少し両者の調整をしていただければと思います。もし家族が「認知症かな？」と疑った時の初期対応の仕組みを図に示しておきますので参考にして下さい。

○認知症初期集中支援チームとは

地域包括支援センター等に設置し、複数の専門職が、認知症が疑われる人又は認知症の人とその家族を訪問し、アセスメントや家族支援などの初期の支援を包括的・集中的（おおむね6か月）行い、適切な治療や自立に繋げるためのサポートを行う。

認知症初期集中支援チーム



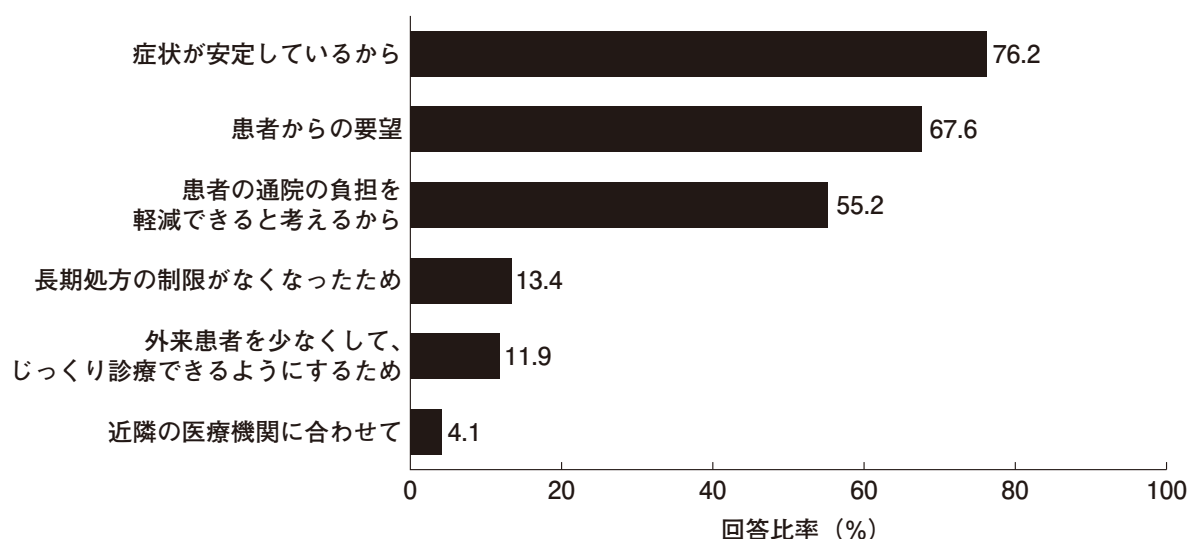
医師が薬を出すということ

先日、国から大病院に風邪など簡単な病気にかかる人を減らす為、開業医の紹介状等を持たず直接受診する場合は、初診では自己負担を5,000円、再診では2,500円程度課す方針が出されたようです。患者様の「かかりつけ医」をめざす我々街医者にとっては一人ひとりの方の軽い病気の状況をしっかりとらえることが出来る事は望ましいことです。しかし国は一方では風邪や頭痛など簡単な病気は医者にかからず、薬局で市販薬を買って済ませようと安易に考えている部分もあり気になります。

17年には年間12,000円以上市販薬を購入すると超えた金額に応じて所得税が軽減されることが考えられています。医療用医薬品から一般用医薬品に転換した「スイッチOTC」と呼ばれる風邪薬などが対象のようです。しかし医師のコントロールがないと薬局で勧められるまま大きな包装で購入し、過量に服用したり、注意が薄れ必要ないのに服用し続けてしまうのではないかと心配です。市販薬服用の副作用は5年間で1225件、そのうち風邪薬と解熱剤が半分以上を占めているようです。又日経メディカルという医学雑誌では風邪の奥に潜む大きな病気を見逃さないようにと「かぜの顔した重大疾患を見逃すな」という特集記事を掲載しているほどです。医療費削減の為の施策であったはずが、その為の重大な病気を見逃し対応が遅くなり、結果的に医療費がかさむことになるのではないのでしょうか。私は国が「かかりつけ医」を持つ事を勧めながら逆に我々かかりつけ医から患者さんを少しずつ遠ざけるような気がしてなりません。例えば以前高血圧や糖尿病など慢性疾患では特定疾患指導管理料を月一回算定から点数を下げて月2回の請求にし、月2回は管理する必要性をしめしていたはずが今では長期投与を勧めています。そんな事では大病院の診療では出来ない個人診療所の重要な役割である患者様一人一人の顔を見て診療する私の云う「草の根医療」にたずさわる「かかりつけ医」にとって患者様とのコミュニケーションの機会を奪われてしまうと思っています。さらに今では長期投与が認められ、図にあるような理由でおこなわれているようです。症状が安定し大丈夫だと判断できる場合はともかく、今増えている無診療長期投与が心配です。患者さんの性格を充分把握して診療以外でも接触することが多いときはともかく、状況を把握できないのに、電話などで長期投与をと言われた場合に断るのは難しい環境が作られてしまっていること、これが市販薬へと向かう環境をいづれ与えてしまうのではないかと心配しています。少なくとも会話は必要ではないのでしょうか。

比較的長期の処方をしている背景（※複数回答）

厚労省（2014年調査 n = 1316）



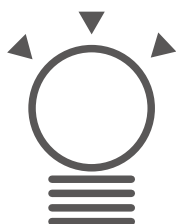
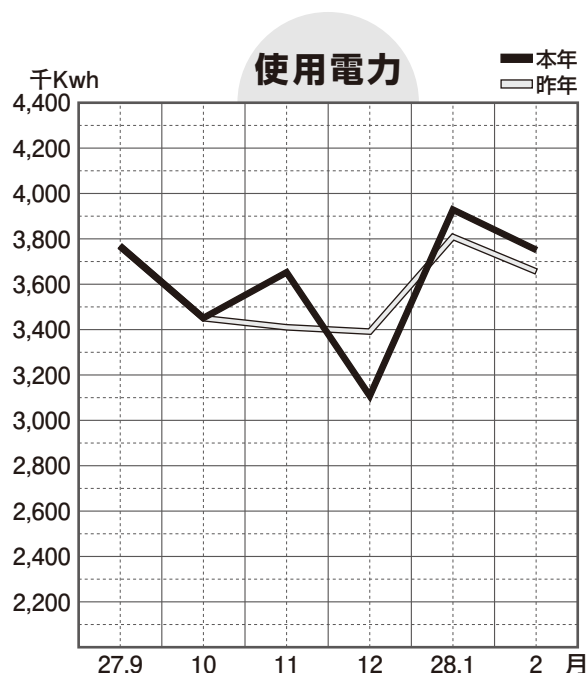
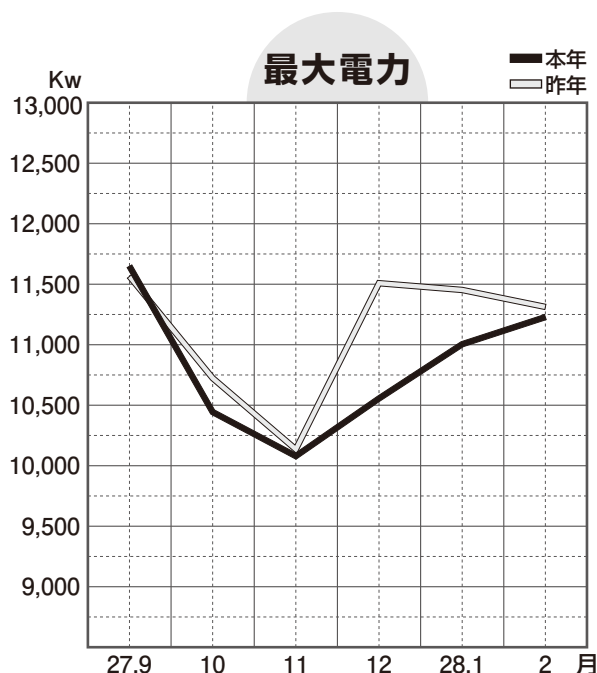
本来最も望ましい診療は、医師の診察、処方の後 調剤薬局で薬の服用の仕方、副作用、併用の問題はないか、他医療機関と処方の重なりはないかなどしっかり確認してもらうことだと思いますが、医師が薬剤師にどこまで患者さんの情報を提供するか個人情報守秘義務とからんでそれも問題になっているようです。難しい問題ですが患者、医師、薬剤師のきちんとしたコミュニケーションが絶対必要でしょうね。皆さんはどうお考えですか。今回は私の勝手な思いを書かせてもらいました。

安藤内科医の記事を転載



お知らせ

平成 28 年 2 月分電力使用状況



電気は正しく使いましょう !!

最新の自動販売機は消費電力70%も削減

街中や会社の休憩スペースなどで見かける自動販売機は全国に約500万台設置されています。それらの自動販売機の省エネ性能や機能はここ数年でとても進化しています。1991年から2012年で消費電力70%以上カットしています。

◎ゾーンクーリング

冷蔵庫のように庫内全部を冷やすのではなく、もうすぐ売れていく商品だけを冷やすことで消費電力を減らす機能です。

◎ヒートポンプ

庫内の冷却装置から出る熱を再利用し、ホット商品を温めることで消費電力が大幅に低減されます。

◎照明LED化と自動点滅

消費電力の少ないLEDの採用、周りの明るさや人を感知するセンサーにより照明をコントロールし、消費電力を低減しています。

◎真空断熱の採用

庫内の冷たさ温かさを逃がさないよう真空断熱材を使いエネルギー効率を高めています。

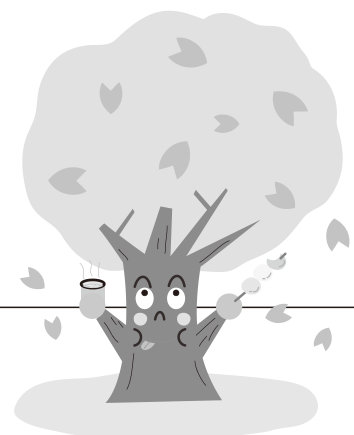
行事予定

2016 **3** March

16 水	
17 木	
18 金	
19 土	『組合休日』
20 日	
21 月	『春分の日』
22 火	各務原商工会議所通常議員総会 役員会 (12:00～)
23 水	
24 木	
25 金	各務原市雇用・人材育成推進協議会
26 土	団地G 『組合休日』
27 日	
28 月	月例会
29 火	各務原市社会福祉協議会評議員会
30 水	総会・基調講演(県商工労働部企業誘致課) 団地ユース編集委員会
31 木	

2016 **4** April

1 金	各務原市新就職者激励の集い
2 土	『組合休日』
3 日	
4 月	青年部新旧合同役員会
5 火	
6 水	
7 木	
8 金	
9 土	『組合休日』
10 日	
11 月	金属団地新入社員激励会
12 火	工団連中部ブロック研修会(～13日)
13 水	
14 木	
15 金	



■ 4月の行事予定

4月18日(月) 月例会
4月23日(土) 団地G

■ 2月度金属団地ゴルフ会

2月27日(土) 各務原カントリー倶楽部
優勝 永田 保 (マルエイ) 2位 森田吉久 (テクノ共栄) 3位 森田浩明 (森田木型)

G-MECCA

GIJU METAL ENGINEERING COMMUNITY COOPERATIVE ASSOCIATION

<http://www.g-mecca.jp>

